

1987	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
7	•	•	•	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	•

●毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき
 防災広報紙

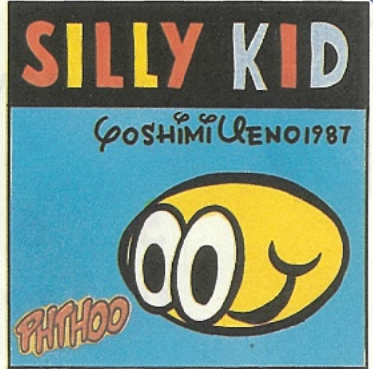
NO.
35

昭和62年6月30日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.(044)200-2111内線2841

どんなに孤独な人でも、
 ひとりで生きてるわけじゃない。

ひとりぼっちの家にも、夜になれば明りがとまります。
 家族の笑い声が響く隣りの家と同じ明りが。
 電話だって、水道だって、ガスだって、みんな同じです。
 生活の血管としてわたしたちの暮らしを支えている、
 これらの様々なパイプをライフラインと呼んでいます。
 もしライフラインが、地震などの災害で切断されれば、
 わたしたちは大都会の中でほんとうにひとりぼっちになってしまいます。
 もう一度、ライフラインの大切さを考えてみてください。
 そして万一孤立した時どうするか、
 きちんと頭の中で整理しておきましょう。





南部防災センターだより



防災広報車をぞご存じですか!

「蛙とこどもたち」を描いたユニークなポスターカラーの車、防災広報車をぞご存じですか。

この車は、「毎月15日は市民地震防災デー」のお知らせや、防災関連施設の調査、点検に活躍しています。また車には、防災行政無線・全市移動無線を搭載しており、災害時においても迅速な広報が行えるよう備えています。町角などでこの車を見かけましたら、防災に関する意見や質問など、気軽に声をかけて下さい。



●ご利用、ご見学のお問い合わせは
川崎市南部防災センター
川崎市川崎区小田7-3-1 TEL 355-2175
交通
JR川崎駅中央口14・21出入口
1番バス乗り場、臨港バス富士電機行き、
小田小学校前下車 徒歩6分

地震の心得⑦

「せまい路地、塀ぎわ、川べりに近寄るな」

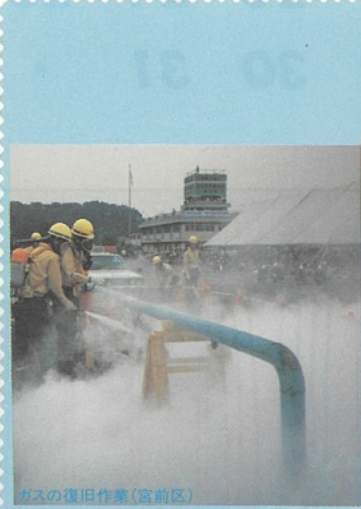
せまい路地では屋根がわらの落下、塀ぎわでは塀の倒壊、また川べりでは地割れや地すべりがおこるので危険です。あわてて逃げ出し、危険な場所には近づかないようにしましょう。



中原防災コミュニティー基地完成

幸区、高津区に次いで3番目の防災コミュニティー基地が、3月中原土木事務所敷地内に完成しました。

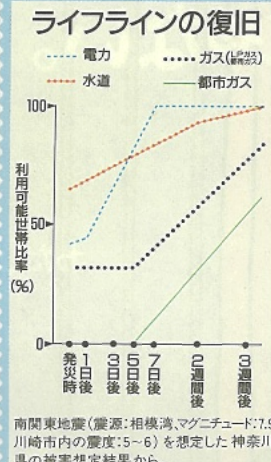
この施設は、災害用物資の備蓄、応急救護、情報伝達など、災害時ににおける応急対策活動の拠点となります。



ガスの復旧作業(高津区)



応急給水(多摩区)



ライフラインは、互いに密接な関係をもつて私たちの生活を支えています。たとえば、電気がとまれば、照明は消え、家庭用電気器具が使えなくなるのはもちろん、ビルやマンションでは、高い階への送水ができなくなり、エレベーターの停止で長い階段を昇り降りしなければならなくなります。また、交差点の信号機が消えることにより、交通の渋滞や混乱が生じます。

非常事態脱出まで、あと3日。

あなたはどうしますか。

ライフラインのはたらき

ライフライン対策

- 1 水**
 - 飲料水のくみおきをする。
 - 臨時給水栓の設置場所を確認する。
- 2 ガス**
 - ガスが止った場合元栓を閉め、連絡があるまで栓をあけない。
 - 非常用の燃料を備えておく。
- 3 電気**
 - トランジスタラジオ、懐中電灯、電池、ロウソクなどを備えておく。
 - 不要な器具は、スイッチを切り、コンセントをぬいておく。
- 4 電話**
 - 非常時の家族の連絡場所を確認しておく。
 - 使用可能な場合でも、使用はできるだけ控え、空合の連絡は手短かにする。

体験談 35

「震度V 78宮城県沖地震体験集」から 仙台市提供

土ぼこりがおさまり、見たら屋根がぶれている

昭和五十三年六月十二日、それは、私達仙台市民にとって忘れられない日でした。震度は五といわれませんが、七郷地区はそれ以上だったと思います。何の災害もない平和な住みよしの地を、一瞬のうちに破壊してしまいました。わが家は八十四歳と八十歳の丈夫な両親と私達親子四人、長男親子四人の四世代十人家族でした。

私は一歳の孫を子守りして前の家で雑談していました。「地震」と騒ぎだし、市道沿いのコンクリート電柱の下に逃げましたが、「電柱の下は危い」と叫んで孫をしっかりと抱え、大きく揺れる市道を走って屋敷内のチビッコ広場へ駆けました。着いた途端、ものすごい轟音と土ぼこりが家が見えなくなり、自分も地割りが起こり地下に吸い込まれるような感じがしました。土ぼこりがおさまると、自宅を見たら、屋根がぶれているではありませんか。夢中で家へ帰るのも忘れて、「どうしよう、どうしよう」と叫んでいました。道行く人たちが家へ向って夢中で駆け抜けて行きます。長男は田んぼより帰って来ました。

われに返って家の中へ入りました。父はさきさきまでチビッコ広場にいたはず。二人とも家の中で元気でいました。歳の屋根瓦は、一棟は落ち、一棟は小舞が倒れました。家の中は壁は落ち、家具は倒れ、ガラスは壊

れ、足の踏み場もない有様でした。父は地震の時は戸だけ開けて外に出ると危いと常日頃言っていました。母はうろろしているうちに茶たんすの倒れるのにつかつかって手をけがしました。嫁は四歳の子を探しに外に出て、植木の陰にしゃがみ込んでしまいました。貸家の奥さんが近所の子四人を遊ばせて抱きかかえ、途方にくれていました。

人数を確認し、安心したところへ、主人が街よりはいたいたことはいらないだろうと思いつきながら帰って来て、びつくりしてしまいました。まず夜を過ごす所だけでも片付けようと、壁土を運び掃除し、食器戸棚や茶たんすを引き起こしながらガラスを片付け、また貸家の被害を見て回り、どうにか住めるようになりました。暗くなっても電気がつかない。自家水道は止まり、食事の用意もできません。長男は慌てて懐中電灯、ロウソク、食料の調達に行きました。プロパンガスも練炭も使えませんが、水を汲んでくる仕事が大変でした。勤務先から二人の息子が無事帰宅し、十人家族が無事故を喜び合いました。

(以下略)

防災110番

電話による
防災相談の窓口として、
昭和58年から防災110番を
開設しています。
防災についての
相談や要望などが
ありましたらお電話下さい。
☎ 211-0119
(休日・夜間も可)

※宮城県沖地震
昭和五十三年六月十二日午後五時四十分発生、
震源:宮城県沖、マグニチュード7.4、死者27人、
この地震はライフラインの重要性を改めて認識させました。